

令和元年度第3回 森林^{もり}の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 開催日時 令和2年2月4日(火) 10:00~12:00
- 2 開催場所 杉妻会館3階 百合
- 3 出席委員 6名
- 4 議 事

(1) 議題

- ア 森林環境税を活用した取組に対する評価と今後について
- イ 森林づくりタウンミーティングの開催結果について
- ウ 市町村・関係団体アンケートの実施結果について

【事務局】

(資料による説明)

- ・議題アについて

【目黒委員】

(資料8の課題等で)「要望が多い」とあるが、どこからか。

【事務局】

(森林環境交付金の)基本枠・重点枠などについて市町村や任意団体から。

【大堀委員】

税制設立当初の趣旨を思い出して欲しい。本来の目的は荒れた森林を整備するため。第3期では森林整備(の事業費割合)が5割を下回っている。しっかり(森林整備の)枠を設けて欲しい。7割は整備に回すとか。

山村集落は高齢化が進み、山を手入れできないということも税制導入の背景にある。しっかり整備に使ってほしい。

- ・議題イ、ウについて

【丸委員】

提言後半に「地球温暖化防止」を記載するよう言ったが記載されなかった。

【沼田座長】

（地球温暖化防止を）特出しするのではなく、多面的機能という表現に含まれているといった整理をしている。

【農林水産部次長】

森林の 50 年後を考えると伐って使って植えることが重要。今年度から県森林環境税を活用して再生林を進めている。今後に向けて取り組んでいきたい。

【大堀委員】

「生業」を含めて考えて欲しい。

【森林計画課長】

提言 14 ページに林業を産業にしっかりと結びつけつつ、NPO、ボランティア等により森林づくりを進めるとしている。

【目黒委員】

「生業」が成り立たないから森林がこんな現状になっている。税の性質上、民間に投入できないのか。

【森林計画課長】

平等に制度化している。

【目黒委員】

ボランティアに傾けすぎているから森林が荒廃しているのでは。もっと民間に投入できないか。

【森林整備課長】

県森林環境税はあくまで森林の保全と森林づくりの意識の醸成が目的。生業は他の国庫補助などの事業を活用しながら支援している。森林整備課として約 100 億円の前算規模で森林整備を進めている。県森林環境税では約 5 億円程度。他の財源を活用してしっかりと森林整備を進めている。

【大堀委員】

(県森林環境税の) 10 億円は決して予算規模として小さい訳ではない。

【丸委員】

今後の施策では、地球温暖化防止を考えて欲しい。(県森林環境基金事業では) 低炭素社会づくりの推進や緑化、植樹活動などに力を入れて、「ふくしまからはじめよう」として取り組んで欲しい。

【目黒委員】

森林環境教育では市町村や学校でどのように取り組んでよいか悩んでいる。(取組内容についてしっかりとした) プログラミングを提供することが大切。「木育」についてもしっかりとした指導者が必要と感じている。学校林を有効に活用することも必要。

【薄井委員】

森林環境保全は大切だが、森林整備実績は目標の 7 割しか進んでいない。森林も変わってきており(森の案内人として)現場での対応にも困っている。まだまだ税制の中でやるべきことはある。制度の継続を強く希望する。

【橋口委員】

タウンミーティングや市町村関係団体アンケート結果から見えてきたものは、制度の廃止はないということと、現在の施策内容のまま継続を望む声が 7 割あったということ。制度として継続すべきであると考えます。

タウンミーティングでは、取組は素晴らしいが認知度が低いとあった。周知方法について、ホームページを見直して、一般の方が見て楽しい内容にすべき。森の楽しさ気持ちよさを伝えていく。地域毎に植樹祭を開催して、魅力的なホームページで伝えていくことが必要。

【沼田座長】

(制度やホームページへの) 入口を下げて参加しやすくする必要がある。「森」を検索しやすくする。

【沼田座長】

（本日の意見交換では）今の取組はどれも継続すべきと聞こえる。特に市町村事業が増えるがどうだろうか。

【薄井委員】

学校では4年生を森林環境学習の対象としていて、（在校中に）1回だけしか体験できない。計画的に予算配分できていれば、子供たちにもっと機会を与えられるはず。体系的に森林環境教育を進めるべきである。

里山の事業は素晴らしい。（更に地域の）現状を把握して取り組んで欲しい。

【沼田座長】

タウンミーティングで「税額は一人2,000円でも良い」という意見があったがどうか。

【目黒委員】

国の森林環境譲与税との関係で用途の整理がはっきりしないといけない。

【事務局】

「木材の利用促進」と「森林の公益的機能に関する普及啓発」では整理が必要。今後分かりやすく整理する。

【丸委員】

低炭素社会づくりの推進にしっかり取り組んで欲しい。